

【夏期講習の申込について】

○夏期講習中は通常の個別授業がストップします。

7月20日(水)から通常の個別授業がなくなり、夏期講習用のスケジュールになりますので、お気を付けください。

○また、通常の個別授業の継続をご希望される場合も、夏期講習としての申込をいただかなくてはならないことになりますので、お手数ですがよろしくお願いいたします。

★その場合、スケジュールは改めて組み直しますので、曜日・時間等変更になりますので、あらかじめご了承ください。

○申込書の書き方として

例えば数学で個別指導を週2回くらい受ける場合、個別指導、6回(数学)と明記したうえで、講習中に来られない日時をフォームの中で斜線で消し込んでください。

生徒が来られる日程と講師のシフト(生徒への適合性を踏まえて)をあわせて、個別指導を配置して行きます。

※その際、クラス授業を申し込んでいる場合は、その枠に「クラス」と明記していただけると助かります。

○個別指導のスケジュールは、決まり次第、順次メールで配信いたします。

以上よろしくお願いいたします。

Veritas 2011 夏期講習 講座案内＜英語＞

〔高3生 対象講座〕

□ 英語長文(全 10 回) + 単語テスト

厳選された良質の入試問題を素材に、ハイレベルな英語力の養成を目的とします。
とりわけ、《論理的思考力》の向上に重きを置きます。

第 1 回…	新潟大
第 2 回…	名古屋大
第 3 回…	九州大
第 4 回…	法政大
第 5 回…	首都大学東京
第 6 回…	同志社大
第 7 回…	神戸大
第 8 回…	名古屋大
第 9 回…	早稲田大
第 10 回…	東京外語大

★出題大学は仮予定です。

□ センター試験対策＜概論／演習＞(全 5 回)

＜概論＞では、2011 年度本試験の問題を例にとり、時間配分や大問ごとのアプローチの仕方など、センター試験にどう取り組むべきなのかを講義します。＜演習＞では、＜概論＞で学んだことを活用して、実際に過去問や市販の模擬試験を解いてもらいます。

□ 和文英訳(全6回) + 単語テスト

和文英訳を課す大学を志望する生徒が対象。1学期に引き続き本格的なトレーニングを積みみます。

□ 客観／記述形式模試

原則的に受験生全員に受けていただきます。現時点での実力を測るのが目的です。
クラス授業1回分の料金がかかります(問題の一部は解説授業あり)。

〔高2生 対象講座〕

□ 高2英語総合(全 8 回)

英文法、構造理解、長文読解を総合的に学習します。

★★ 2学期より受験を見据えた本格的なレギュラークラス授業が開講します ★★

【センター演習 現代文(評論)】

■全7コマ 要予習 要予習

■原則的に受験生用

■部分的受講可。ただしできるだけ第一回は受講してください。

■センター試験対策の中でもっとも点数が安定せず、恐ろしい思いをするのが国語、中でも現代文です。受験生によっては大問1問50点の配点のところ、10点そこそこから45点くらいの振れ幅になることすらあります。

本格的なセンター演習はこれから始まりますが、その前段階で確認しておきたい内容を演習として行います。今後の演習を実効性あるものにするための学習方法・演習方法の確立を目指します。第一回に全体的なレクチャーをおこないます。その上で2回目以降、評論についての演習を行い、一つのスタイルを作りあげていきます。

ポイントは、

- ① センター現代文(評論)についての概論
- ② 課題文の読み方(読む順番、着眼点、意味段落)
- ③ 傍線部へのアプローチ(検討すべきポイントの明確化、その方法)
- ④ 選択肢の検討(検討すべきポイントの明確化)

センター試験の評論文は、かなりはっきりしたスタイルを持っています。また客観問題の作り方にはある程度の玄海があります。そこから一定の解法のスタイルをつくり上げることが可能になります。

今回はセンターの評論文についての実践的なアプローチ方法、解法を明確にさせて、その実践的な演習を行います。2学期以降、学校でもセンター演習がどんどん始まると思いますが、センター演習はただ問題を解けばいいわけではありません。その演習を通して自分のしっかりとした方法・スタイルをつかみとり、固め、安定した点数を出せるようにならないはいけません。その第一歩となる内容を打ち出します。

【センター演習 現代文(小説)】

■全7コマ 要予習 要予習

■原則的に受験生用

■部分的受講可。ただしできるだけ第一回は受講してください。

■センター試験対策の中でもっとも点数が安定せず、恐ろしい思いをするのが国語、中でも現代文だと評論文についてので書きましたが、その評論文よりも不安定な点数になりがちなのが小説です。

評論文にくらべて小説は、書き手の自由度が大きく、したがって定型的な解法をつくり上げることが難しい。また評論文とおなじアプローチをしては絶対に行けないというような面もあります。

けれども、やはりある程度は、こうした方がいいというアプローチの方法はあります。そうしたことを提示しながら、演習を行います。

センター現代文(評論)についての概論

- ① 課題文の読み方(これは評論文とかなり違う)
- ② 傍線部へのアプローチ(検討すべきポイントの明確化、その方法)
- ③ 選択肢の検討(検討すべきポイントの明確化)

【現代文読解の基礎】(1,2年生用 受験生も可)

■全5コマ

■要予習 部分的な受講も可ですが、できるだけ全体を通した受講が望ましい。

■現代文の読解力が取りざたされますが、いったいその読解力とはなんだろう？ 正体不明である場合が多いように思います。しかしその正体不明の力をつけることなどできません。

今回は、読解力とはどういうものか、どういう力が要求されているのか、ということをおある程度明らかにしながら、実際の演習を通して「読む」ということの基本的なあり方と方法をつかんでもらうことを目的にします。

ポイントとしては…

- ① そもそも読解力とはどういう力なのか
- ② 主張があるからこそ、文章は書かれる。→主張をつかむ。主題をつかむ。
- ③ 読み手を納得させるために、筆者は、主張をできるだけはっきりさせ、その理由を述べます。そのために、＜同一性＞＜対比＞＜根拠と主張＞の大別して三つの糸を張り巡らせています。読解とは基本的にこの糸を丹念にたどることです。
それを実際にやってみようというのが今回の授業の眼目です。

【現代文演習】(記述を中心にした受験に向けて)

■全5コマ 要予習。入試演習です。

■現代文＝評論文の記述問題を中心にした読解と記述方法の演習を行います。

なかなか現代文の本格的な演習は難しいところがあります。現代文の読解力をつけようと問題集を買ってきて演習をしても、その解答・解説もまた「現代文」ですから、基本的な読解力が不足している生徒の場合、そもそも解説を読むことがかなりたいへんです。また問題集の解答とその導き方に無理があるものときおり見かけますし、入試問題などの回答を見ても予備校・出版社によってかなり解答が違ふことがあります。これは客観問題でもそうです。ある年の立教大学の選択式の問題で、代ゼミ・東進・赤本の3社で、各々解答がかなり分かれてました。記述問題についても同様です。

けれども抑えるべきポイントはやはりあります。

今回の演習では、

- ① まず筆者の主張の全体を捉える。(ある程度)
- ② 設問文と設問箇所の分析。その方法。
- ③ 記述解答の作り方

を演習を通してつかみとってもらいます。

【2011 夏期講習の概要(数学)】

【方程式と不等式】(1,2年生むけ 受験生も可)

■全5コマ 要予習

■部分的な受講も可。

■苦手が多い不等式です。不等式が上手く扱えない生徒がかなりたくさんいます。しかも不等式は、あらゆる単元に登場してきます。数学において大小関係を評価することは非常にシンプルで、かつ奥深いことだからです。要予習です。問題は必ず解いてきてください。

苦手な生徒が多いのは単純な理由です。不等式の扱いが等式の扱いに比べると感覚的に2倍くらい「繊細」だからです。やっていいこと、いけないこと。そうした計算の規則が等式よりも遥かに厳しく、それに充分に対応するような演習が行われていないからです。実際に不等式だけに焦点をあてて扱われることはあまりありません。

さらに、不等式の問題は、どうしてもグラフと結びつきやすく、ただ数式を機械的に変形するということだけではすまない面が強くあるからです。

今回は、そうした不等式の基本的な扱い、解法、なかでも不等式の視覚化を一つのテーマに、演習を積み重ねます。

【図形と方程式】(1,2年生中心 受験生も可)

■全6コマ 要予習

■図形と方程式、特に領域と軌跡を苦手にする生徒は少なくありません。あるいは解けてはいても、流れを知っているだけで、自分が何をやっているのかははっきりしていない場合も少なくありません。

けれども非常に重要な単元です。高校数学は、方程式・不等式などの数式の扱いと、グラフなどの図形的な扱い、この2つが両輪になっています。これは数学全般を通して同様です。代数学と幾何学は数楽の二大分野だと言えます。その両方にまたがり、両方の内容を統一するような位置にこの単元があります。いってみれば、方程式・不等式を図形的に考え、図形・グラフを方程式・不等式的に考える、ということになります。だから数楽が得意な生徒には非常に面白い単元として感じられ、苦手な生徒には面倒で、よく分からない単元ということになりがちです。

この図形と方程式、領域と軌跡を、特に方程式・不等式とグラフ・図形との結びつき方を捉えることに軸をおき、

- ① 基本的な手法と考え方を整理するレクチャー
- ② 基本手法を身につけるための演習問題(10問+ α)
- ③ 入試の標準レベルの問題、数問を扱います。

【センター数学ⅠA】 【センター数学ⅡB】

■両方とも8コマずつ

■部分的に受講可

■要予習

■従来のコマ数よりも増やしました。

数学は記述式とマーク式で偏差値の差が比較的大きな科目です。他の教科は一般的にマークよりも記述のほうが嫌だという生徒が多いですが、数学についてはマークのほうが嫌だという生徒がいます。自分の手法と思考の流れが問題の誘導と合わないとうまく解けなくなるからです。

そうしたことを踏まえて演習を組みます。

センター数学は、ⅠA、ⅡBとも、各大問の内容は決まっています。8コマは、各大問に2コマずつ投入し、主要な問題をカバーします。

【数学ⅠAⅡB基礎演習＝基本手法をみにつける】

■全5コマ 要予習、学年共通

■部分的受講可(ただし事前に相談してください。2コマずつくらいのかたまりになっています)

■数学ⅠA、ⅡBの全体像を扱うクラスではありません。3つほどの手法を徹底的につかみとってもらいます。

(1)逆像法

(2)視覚化

(3)内積の用法

です。(1)の逆像法は、「解の配置」や「通過領域」の問題の主要な手法で、使用頻度や応用範囲が広いものです。(2)の視覚化は、方程式や不等式などの数式を視覚化＝グラフ化することで処理しようとするものです。(3)の内積の用法は、ベクトルの内積を一步踏み込んで一挙にその応用範囲を広げるものです。

いまの教科書や参考書・問題集の作り方ではまとめて扱うことが難しいものです。例えば2次関数や3次関数、方程式、不等式、軌跡と領域、最大値・最小値の問題(場合によっては三角関数などを含めた)などの単元や領域に跨っているからです。それを今回はまとめて扱います。

予習は必要ですが、解ける・解けないにあまりこだわらないでください。身につけて欲しいのは「手法」とそれを支える「考え方」なので、「この問題は解けたらからよい」ということではありません。追加の練習問題も出しますので、あわせてこの機に身につけてしまってください。

【数学ⅠAⅡB＝入試総合演習】

■全5コマ 要予習、学年共通(主要には受験生向き)

■部分的受講可(ただし事前に相談してください。2コマずつくらいのかたまりになっています)

■数学ⅠA、ⅡBで、学校の授業や通常の参考書・問題集ではなかなか扱われない「融合問題」を中心に演習をします。

融合的な問題を扱うことには意味があります。

- ① さまざまな単元を横断して、さまざまな知識を引き出すための練習をすること。
- ② ⅠA、ⅡBのほとんどの分野に触れていきますので、そこで弱点をあぶり出し、今後の
- ③ 実践の場でうまくいかないことの原因として、「どの単元の問題が分からないこと」があります。例えば微分の単元にある問題なら微分することははっきりしてしまっています。つまりその問題を攻略するもっとも核心的な手法は、最初からはっきりしているわけです。しかし、実際の模試や本番の入試ではそうはいきません。この事実が、「問題集ではできたのに模試のときにはできなかった」というような結果に関係しています。

融合問題に触れることで、こうした実践的な課題の解決に踏み出してください。

難易度は入試の標準問題を中心に、少しレベルが高めのものを扱います。

【数Ⅲ 微分】

■全 4 コマ 要予習 受験生用

■部分的受講可

■受験に向けての数Ⅲの微分の典型的な処理方法を演習&レクチャーします。部分的に極限を含みます。

極限から微分の理論的な部分は高校数学の中でももっとも理論を厳しく要求されるところですが、今回は受験に向けての実践的な対処方法を中心に扱います。

積分に比べると微分は計算は容易だし必ずできなくはいけません。けれども、関数やグラフの扱い、その特徴のつかみ方に難しさがある場合があります。したがって、基本的な内容としては、

- (1) 微分の定義(極限を含む)にかかわる問題
- (2) グラフ、媒介変数の処理(グラフの描き方を含む)
- (3) 方程式・不等式への応用

などを中心にします。